

病態解析検査学演習Ⅱ (Graduate Seminar of Pathophysiological AnalysisⅡ)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至、小菅優子	1年次後期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要(内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	病態解析検査学演習Ⅱでは、発酵食品を中心としたわが国の発酵食品の中樞神経系に及ぼす機能について解説する。大豆発酵食品は、体調を調整するいろいろな機能を持つ。演習では、神経変性疾患における嗅覚異常とそれに対する嗅覚検査実施の現状と問題点について文献調査を中心に学修する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。 課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」の達成に寄与している。							
到達目標(履修者が到達すべき目標)	1. 発酵食品の人に対するホメオスタシス作用を説明できる。 2. 機能性消化管障害の病態を説明できる。 3. 神経変性疾患、特にアルツハイマー型認知症における嗅覚異常の関連について考察できる。							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/分からない用語については調べておく(各30分) 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/担当教員が配布する資料で復習を30分程度行うこと。(各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	発酵食品とホメオスタシス1(文献調査)					小菅優子	
	第2回	発酵食品とホメオスタシス2(文献調査)					小菅優子	
	第3回	発酵食品とホメオスタシス3(ディスカッション)					小菅優子	
	第4回	発酵食品とホメオスタシス4(ディスカッション)					小菅優子	
	第5回	発酵食品と生活習慣病1(文献調査)					小菅優子	
	第6回	発酵食品と生活習慣病2(ディスカッション)					小菅優子	
	第7回	発酵食品と長寿因子1(文献調査)					小菅優子	
	第8回	発酵食品と長寿因子2(文献調査)					小菅優子	
	第9回	発酵食品と長寿因子3(ディスカッション)					小菅優子	
	第10回	発酵食品と長寿因子4(ディスカッション)					小菅優子	
	第11回	生活習慣病と神経変性疾患					小菅優子	
	第12回	長寿因子と神経変性疾患					小菅優子	
	第13回	アルツハイマー型認知症と嗅覚異常の関連について1(文献調査)					森 啓至	
	第14回	アルツハイマー型認知症と嗅覚異常の関連について2(ディスカッション)					森 啓至	
	第15回	嗅覚検査の実際と改善点についての検証1(文献調査)					森 啓至	
	第16回	嗅覚検査の実際と改善点についての検証2(ディスカッション)					森 啓至	
	第17回	神経変性疾患と嗅覚異常に関する実験的研究について1(文献調査)					森 啓至	
	第18回	神経変性疾患と嗅覚異常に関する実験的研究について2(ディスカッション)					森 啓至	
	第19回	動物を用いた基礎研究の有用性について1(情報収集)					森 啓至	
	第20回	動物を用いた基礎研究の有用性について2(ディスカッション)					森 啓至	
	第21回	嗅覚検査とアルツハイマー型認知症早期診断の可能性について1(文献調査)					森 啓至	
	第22回	嗅覚検査とアルツハイマー型認知症早期診断の可能性について2(ディスカッション)					森 啓至	
	第23回	まとめの討論1					森 啓至	
	第24回	まとめの討論2					森 啓至	
評価方法 評価基準	レポートで評価する(100%)							
教科書	特に定めない			参考書等		教員が資料を配布する。		
学生へのメッセージ	認知症はこれからの社会において避けては通れません。認知症は神経変性疾患が主な要因と考えられます。発酵食品による健康長寿について考えましょう。							